

日立ビジュアルコミュニケーション「Woolive」の多彩な活用法

簡単操作で、すぐにつながる。 身近になった高品位コミュニケーションで ワークスタイルを劇的に進化させる 日立ビジュアルコミュニケーション「Woolive」

ウーライブ

Wooliveは、会議室をはじめ、自席のパソコンや内線電話、携帯電話、外出先のモバイルパソコンからも参加できるテレビ会議システム。先進のH.264/SVCコーデック採用により、乱れのない映像による高品位コミュニケーションを提供し、携帯電話をかける感覚で誰にでも簡単に使用できる優れた操作性により、さまざまなコミュニケーションをさらに身近に。ワークスタイルを劇的に進化させる日立のビジュアルコミュニケーションシステムだ。

経費節減や時間の節約から 高品位コミュニケーションへ

人が移動せずにネットワーク上で情報をやり取りすることで、情報共有や迅速な意思決定を可能にするテレビ会議システム。複数拠点を持つ大規模企業を中心に導入が進み、現在では、中小規模の企業や自治体まで導入が進んでいる。かつては、拠点間を結んだ遠隔会議による出張費等の「経費節減」や「移動時間の削減」などが導入理由の上位を占めていた。しかし最近では、拠点を跨いだチーム間連携による「生産性アップ」や「情報伝達の迅速化」、「社内コミュニケーション充実」などを目的とした導入が増えている。また利用者は、社長・幹部といった経営トップや事業部長・部長クラスよりも、課長・主任や担当者クラスといった現場のリーダーやスタッフなどの利用率が増えており、テレビ会議システムが遠隔会議の役割を越え、新たなコミュニケーションシステム

へと進化している。

テレビ会議システムの導入が拡大している要因として、利用環境の整備があげられる。ネットワークのブロードバンド化や高画質・高音質なデータ伝送技術の進歩、さらにモバイル端末などのPC性能向上により、テレビ会議システムの映像と音声の品質が向上した。

これにより、会議としての利用だけでなく、タイムリーさが求められる経営トップの講話や、双方向のコミュニケーションが求められる教育・研修での利用、拠点間の共同作業や遠隔サポートといった業務支援、BCP（事業継続計画）に関連した緊急時の活用など、さまざまなシーンでの利用が広がっている。

利用シーンの拡大とともに さまざまな課題も生じている

利用シーンの拡大が進むテレビ会議システムだが、解決しなければならない新たな課題も生じている。

企業などにおいて、業務の効率化

を図りスタッフの活動をサポートしていくためには、情報伝達のスピードと正確性のアップが必要だ。例えば、経営トップのメッセージを直接視聴できることは、全スタッフが一体感を持つ上で非常に効果的である。

また、拠点を跨いだ部門間の連携は、共同作業を円滑に進め、生産性のアップに結び付き、より多くのメンバーが参加することで効果も上がる。これらを可能にするには、ネットワーク環境や利用場所が異なっても安定した映像・音声通信が維持でき、誰にでも簡単に接続、操作できることが必要だ。

そして、災害時にスタッフの安全を守りながら事業を継続させていくことは、企業などの責任でもある。そのためにも、広域災害における情報共有手段の確保も必要だ。

このような課題を解決したのが、日立のテレビ会議システム「Woolive」だ。

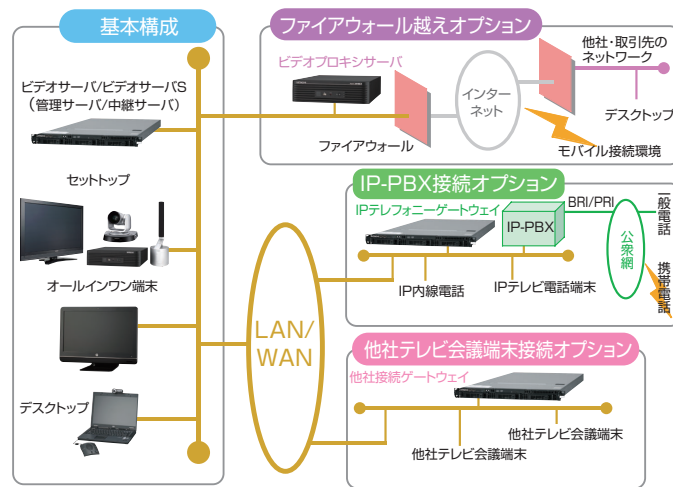
【予約不要、即座に多地点会議】
携帯電話をかける感覚で、即座に多地点会議が可能に。予約操作も不要。



【均等分割表示や話者拡大表示が可能】
画面は自動的に最大16画面まで表示。均等分割表示や話者拡大表示も可能。



【映像の乱れを防止】
映像コーデック「H.264/SVC」の採用により、ネットワーク環境が悪化しても自動的に解像度を変化させ、映像の乱れを防止。



「簡単・便利・高品位」を実現した「Woolive」

Wooliveは、「簡単・便利・高品位」をコンセプトに進化してきたテレビ会議システムである。

Wooliveは、思い立ったらすぐに打合せができるよう、携帯電話をかけるような感覚で、アドレス帳から相手を選べば誰でも簡単に会議を行うことができる。メンバーは、予め予約しておいたり、会議端末の横に操作用のパソコンを置く必要もなく、テレビを見るような感覚で会議に参加することができる。

また、アドレス帳や会議端末のログ情報は、サーバで一元管理されており、運用面でも優れている。

そしてWooliveは、先進のコーデック「H.264/SVC」の採用により、ネットワーク環境が悪化しても、映像の乱れや音切れが少ない臨場感のあるコミュニケーションが可能だ。

優れた柔軟性・拡張性によりシステム拡張にも対応

さまざまなネットワークへの対応や、柔軟性・拡張性に優れていることもWooliveの大きな特長だ。

より多くのメンバーとコミュニケーションが図れるよう、Wooliveは最大200端末の同時接続を行える。接続端末が増加するごとに、自動的に最大16画面まで表示することができ、話者を拡大して表示することも、接続している拠点の名称を表示することもできる。

回線の状況などにより、全ての会議端末が同じ映像速度や解像度で受信できない場合でも、「ビデオサーバ」と呼ばれる会議サーバが各端末の能力に合わせて自動調整し、異速度・異解像度の混在通信を実現。ネットワーク帯域変動や遅延変化のあるインターネット環境でも安定した通信ができ、高速モバイル通信環境でも利用可能だ。オプションとして、ファイアウォール越えにも対応

しているため、余計なポートを開放することなくインターネット経由の接続も行える。

また、日立のIPテレフォニーシステムとの連携により、IP-PBX配下の内線電話や外線電話から音声でテレビ会議に参加することもできる。他社製のテレビ会議端末(H.323映像端末)との接続も可能なので、既存のテレビ会議システムを活用したシステム構築も行える。

このような特長を持つWooliveにより、意思が通い合う“Face to Face”の環境でワークスタイルを進化させることも可能だ。

お問い合わせ先

株式会社 日立製作所
通信ネットワーク事業部
■製品情報サイト
<http://www.hitachi.co.jp/network/>
■インターネットでのお問い合わせ
<http://www.hitachi.co.jp/network/contact/>